

2016 年度 事業計画

自 2016 年 4 月 01 日
至 2017 年 3 月 31 日

公益財団法人東京カリタスの家

公益財団法人東京カリタスの家

2016年度 事業計画

(2016.4.1～2017.3.31)

法人共通理念

本法人はキリスト教精神に基づいて、地域社会の家族福祉が充足することを目的とした活動をするために設立されました。健康で幸せな人生には「身体的」「精神的」「社会的」「霊的」な健全さが満たされていくことが必要です。

- ・私たちは、生き辛さ、苦しみを負っている方々を家族、兄弟姉妹として迎え、その困難や苦しみをともに担い、寄り添うことを目指します。
- ・その方が本来持っている「生きる力」を回復し、自分らしく生きることができるよう共に歩みます。

I 公益目的事業

事業1 家族福祉相談室

1 目標・活動計画

① 相談支援活動

個別相談活動の充実

ひとりひとりの相談者に誠実に向き合い、その方の主体性が尊重される関わりを心がけます。相談者が抱える問題は複雑で多岐にわたることが多くあります。これらの問題を一緒に整理し、地域や福祉制度とも連携をとりながら、よりよい方向に進む支援をめざします。

(開所日とスタッフ編成)

| | | |
|--------|-----------------|-------------|
| 開所日と時間 | 月曜日～土曜日（祝祭日を除く） | 10：00～16：00 |
| 活動形態 | 来所、訪問及び電話 | |
| スタッフ構成 | ボランティアスタッフ | 10名 |
| | 受付ボランティア | 若干名 |
| | 活動ボランティア | 約150名 |
| | 職員 | 1名 |

(活動内容)

| | |
|--------|---|
| 相談活動 | こころの健康、人間関係、進路人生、ほか |
| 生活支援活動 | 障がい者、子育て、高齢者など、援助を必要とする方の要望に添った支援（話し相手、家事援助、通院同行、療育施設等への送迎、車椅子介助、ガイドボランティアなど） |

② グループ活動の充実

フリースペース「ひまわり」の運営

運営はスタッフリーダーと数名のボランティアが担い、利用者の協力も得て、家族的な雰囲気大切にします。フリースペースとして居場所を提供します。さまざまな理由で社会参加が難しい方や、地域の作業所、デイケアなどへ行けない方が安心して集い、仲間に出会える場作りをめざします。

- ・互いに支え合う自助、共助の心を育て生活の幅を広げます。

- ・参加することで社会とのつながりを確認し合います。
- ・仲間と共にする軽作業や会話を通じて社会参加の喜び、経験を豊かにします。
- ・食育により、食の大切さを伝えます。
- ・家庭菜園で野菜作りをします。
- ・遠足（年2回）を実施します。

（開所日・開所時間）

毎木曜日 10：00～15：00

2 行事

クリスマス会（カリタスパーティー）12月

3 課題

活動ボランティアの充実 広域から寄せられる多岐にわたる相談に対応するために、ボランティアスタッフの養成、確保が必要です。

広報活動の充実 サービスを必要とする地域住民に「家族福祉相談室」を知っていただけるよう、広報活動により力を入れる必要があります。

4 研修

- ・ボランティアスタッフ養成として基本理念、霊性について学びます。
- ・ケース検討会、スーパービジョン、その他の研修プログラムを活用し、相談者への理解と適切な関わりを学びます。
- ・民間相談機関連絡協議会主催の各種研修会を活用します。

事業2 放課後等デイサービス カリタス翼

事業概要

放課後等デイサービス カリタス翼は、2013年に児童福祉法に基づいた障害児通所支援事業所として指定を受け、運営されています。放課後等デイサービスとは、学校就学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進する事業です。

（開所日・開所時間・定員）

月曜日～金曜日（祝祭日を除く） 14：30～18：30 長期休み中 10：00～17：00

1日の定員 10名

2016年度の事業目標

放課後等デイサービスカリタス翼が、地域における障害児支援の核となり、他機関と縦横に連携・協力を取りながら、障害児とその家族が地域で「共に生きる」ことを支援します。

1 放課後等デイサービス事業

基本方針

利用児童一人ひとりの理解に基づき、ボランティアと協同しながら、その子の育ちを支えます。

事業内容

① 個別支援計画の作成

- ・発達的な課題や障害特性をもつ利用児童が、安心して自分らしく充実した放課後が過ごせるように、保護者と協議しながら個別支援計画を作成します。個別支援計画は、将来に向けた目標とそこに向けた具体的な方針と支援内容をまとめ、支援者同士が情報を共有し、一貫性のある支援を行います。
- ・個別支援計画は、半年に1回を目安に保護者を交えて振り返りを行い（モニタリング）、その内容を踏まえて後期個別支援計画を作成します。

② 放課後等デイサービスにおける活動

- ・学習：個別支援計画に基づいて、利用児童の発達課題に即した個別の課題を作成し、自立して取り組めるよう支援します。課題は、何を、どれくらいするのか視覚的にわかりやすく作成し、課題に取り組むことで達成感を育めるようにします。中高生には、将来の就労も視野に入れた活動に取り組みます。
- ・社会性：社会性を育み、将来地域のなかで自分らしく生活していけるように、グループ活動やコミュニケーションの指導を行っていきます。
- ・自立：見通しをもち、自立的に活動していくために、障害特性を踏まえながら、自分で分かって活動できるような視覚的な手がかりを活用します。
- ・生活：身近な活動を通して、生活スキルの向上を目指します。個別の発達課題に即しながら、身辺自立、排泄、調理、清掃、片付けなどを行っていきます。
- ・余暇：学校の活動で疲れてくる利用児童がほっと息抜きできるように、個別の嗜好性に配慮した余暇活動を提供します。また、好きな活動を通して、適切に相手に要求することや、待つこと、時間で気持ちを切り替えるなどの社会性も学びます。

③ 夏合宿

- ・利用児童を担当するボランティアが安心して夏合宿に参加できるように、障害特性を理解する機会として、プレ合宿を7月に行います。
- ・2016年8月10日（水）～12日（金）に長野県国立信州高遠青少年の家にて夏合宿を行います。定員は15名です。

④ ボランティアとの協同

- ・ボランティアと協同して、利用児童の支援にあたります。
- ・職員がボランティア・コーディネーターとなり、月1回の振り返りを通じて、ボランティアの際の困りごとなどをフォローします。

⑤ 保護者との連携

- ・保護者会を企画し、カリタス翼での活動の様子などを具体的に伝える機会を作りながら、支援者と保護者との間にさらなる信頼関係を育みます。
- ・見学週間（オープン・カリタス）を設け、保護者や地域の方々が気軽にカリタス翼の中の様子を見られるようにし、風通しの良い放課後等デイサービスを目指します。

今後の課題

- ・安定的な運営のため、利用実績の整理など事務作業の効率化を図ります。

- ・虐待防止委員会、研修委員会、安全管理（危険防止・衛生管理）委員会、防災委員会等、信頼される組織になるよう整備します。
- ・障害者虐待防止法に関連させて、倫理綱領・行動指針・虐待防止マニュアルなどを整備します。
- ・ボランティア規程を踏まえたボランティア受け入れ体制を整え、利用児童とボランティアが安心して活動できるようにします。
- ・利用を希望しながら待機している児童が20人以上いることを踏まえ、早急に今後の対策を検討します。

2 地域連携事業

基本方針

- ・縦（年齢に応じた繋がり）と横（他機関同士の繋がり）に連携を取りながら、利用児童の個別の理解を深め、一貫性のある支援の実現を目指します。

事業内容

① 教育機関との連携

- ・夏休みを中心に、利用児童が通う学校との連携会議を行います。

② 他機関との連携

- ・文京区自立支援協議会定例会議や相談支援事業所連絡会等への参加を通して、文京区教育センター、障害児相談支援事業所など他機関との連携を積極的に進めます。
- ・文京区内の放課後等デイサービス事業所との連携を図るために、「文京区放課後等デイサービス連絡会（仮）」の設立を目指します。
- ・放課後等デイサービスの質的向上を目指し、シンポジウムの開催を計画します。
- ・放課後等デイサービスという枠組みに囚われず、利用児童が幅広く社会的な活動に参加できるように、地域活動支援センターみんなの部屋と協力でカリタス・バザーの参加を企画していきます。

今後の課題

- ・他機関と連携するにあたって、客観的な情報共有が進められるように、指導員の専門性を高めます。また、アセスメントの質の向上を目指し、内容を整理します。
文京区在住者については、文京区乳幼児発達支援連絡会が作成した「ふみの輪」をベースに生育歴等に関する情報をまとめます。
- ・指導員が現在の社会福祉行政に関する包括的な知識を持ち、他機関の実情を十分に理解しながら地域でのリーダーシップを発揮できるように、内部研修を行います。
- ・連携に必要な個人情報に関して、個人情報取扱い規程等を整備し、安全に管理できるように務めます。
- ・ホームページの「お知らせ（Blog）」を充実させます。具体的には、カリタス翼での取り組みや職員の専門性がより伝わりやすくするために、行事や防災訓練時の様子、また職員の研修レポートやボランティアの感想などアップデートしていきます。その際には、個人情報に十分注意します。

3 障害児相談事業

基本方針

障害児をもつ家族との面談等を通じて、障害児とその家族の地域での生活を支えます。

事業内容

① 療育相談

・荻野美佐子理事（上智大学総合人間科学部心理学科 教授）による利用児童と修了生の保護者に対する療育相談を年間2回行います。

② 家族支援

- ・地域で障害児を育てることについての一般的な相談を行います。
- ・障害の啓発のために、地域からの求めに応じて講演会など行います。
- ・入院していた障害児が退院後地域に安心して定着できるよう、必要な支援を行います。

今後の課題

- ・文京区教育センターと密接な協力関係を構築し、文京区における障害児相談支援事業の一翼を担えるよう、相談援助技術の向上に努めていきます。

4 その他事業

① 防災訓練

災害時における利用児童の安全を確保するために、火災と地震を想定した防災訓練を年2回行います。防災訓練時には、利用児童が安全に引き渡せるよう、引き取り訓練を行います。また、災害時の緊急連絡手段として、災害時伝言ダイヤル等の使用に関する訓練も同時に行います。

② 修了式

高校3年生でカリタス翼を修了する利用児童のために、3月に修了式を行います。

③ 本郷教会への協力

カリタス翼に活動場所を提供していただいている本郷教会と密接に協力していきます。

④ スーパービジョン

支援技術の向上を目指して、荻野美佐子理事によるスーパービジョンを年6回程度行います。

⑤ ボランティア勉強会

ボランティアなど、障害児と関わる人を対象に、障害特性や関わり方などを学ぶ機会として、勉強会等を企画します。

事業3 地域活動支援センターみんなの部屋

事業概要

地域活動支援センターとは、地域で生活している方を対象に、相談など日常生活支援や地域交流活動を行い、社会復帰と自立と社会参加の促進を図る場所です。文京区の補助金を受けて運営しています。みんなの部屋は、多くの旧作業所が移行したⅢ型の地域活動支援センターとなりますが、作業やグループ活動を通して、癒しと励ましを与えあうような人と人との関わりの場を作ることを目的としています。

1 基礎的事業 事業内容とその目的

基礎的事業には、創作的活動、生産活動の機会の提供及び社会との交流の促進等地域の实情に応じた支援事業が含まれます。

(創作的活動・生産的活動・自主製品の製作)

カード(グリーティング・クリスマス・イースターなど)や手芸品の製作

- ・作業を通して集中力を高めます。　・作業を自己表現の一場面とします。
- ・共同作業を通してコミュニケーション能力を高めます。

活動日：週4日(月～水、土曜日)

(自主活動支援)

聖書講座：人間的、霊的成長を高めます。月2回 施設長(司祭)指導。

(文化活動支援)

コーラスサークル：皆と共に歌う喜びを味わいます。月1回 ボランティア講師指導。

(地域交流活動)

バザーへの参加：地域への当施設の活動紹介、地域住民との交流の場とします

2 機能強化事業 事業内容とその目的

機能強化事業には、専門職員の配置による医療・福祉及び地域との連帯強化、地域住民ボランティアの育成、障害に対する理解促進を図るための普及啓発等の事業が含まれます。

(生活支援活動)

病院連絡、通院同行、服薬管理、公的書類作成の助言

- ・症状悪化時や悪化防止のための支援を行います。(随時)

(健康増進活動)

栄養、調理指導、昼食会の実施

- ・健康維持、メンバー間の交流、日常生活の質的向上を目指します。(月4回 金曜日午前)

(地域への精神保健福祉啓発事業)

ボランティアの育成

- ・当施設の活動紹介 東京カリタスの家ボランティア養成講座の参加(年6回)
- ・精神障害に関する啓蒙活動 みんなの部屋内でのボランティア講座の実施(年3～4回)
- ・ボランティア活動支援 みんなの部屋内でのボランティア活動支援(月～水、土曜日)

(精神保健福祉活動促進事業)

当施設の紹介、精神障害に関する啓蒙活動、各教会内での人的交流

- ・年数回の各教会訪問および定期的に行われる各教会バザーへの参加

3 一般相談支援事業 事業内容とその目的

精神保健福祉相談：電話、面接による外部からの相談受付(月～水、金、土曜日)

4 地域生活安定化支援事業 事業内容とその目的

治療継続や見守り支援を行います

自宅訪問、医療関係者等との話し合い、支援計画の立案、受診支援等、保健師と連携して随時実施

5 利用者人数見込み

2400 人（電話相談も含む）

6 新計画

（新たな発展と可能性の模索）

- ・作品への取り組み：手芸品、カード作成については、メンバーの自主性がより発揮できることを目指します。作品のアイデアを共に考え、材料の選択やデザインを工夫します。スキルアップのために外部からの講師を招くことも検討していきます。
- ・メンバーの健康増進：一人暮らしで役に立つ調理体験をより増やし、食事をする楽しみと生活力をアップさせます。また、体操やレクリエーションの機会を増やします。
- ・東京カリタスの家の一員として、東京カリタスの家・賛助会の存在が知られよう広報活動に参加します。ホームページを活用し、作品や活動をアップし、作品の紹介をすると共に、法人を知ってもらうよう PR を行います。
- ・カテドラル構内で活動している特色を生かし、構内売店で作品ディスプレイを工夫し、地域活動支援センターの活動を広報すると共に、地域の方が教会に親しんでいただけるような小冊子を作ります。

（長期展望）

- ・発達障害のメンバー対応についての学びを深め、みんなの部屋の活動内容に反映させます。
- ・長期展望を持って新しい就労支援の可能性を探るとともに、放課後等デイサービスカリタス翼との協働のあり方を模索し、活動する機会を作ります。

事業4 ボランティア開発養成室

理念

一人一人のボランティアが「苦しみの中にいる人の隣人となるように招かれています。」これを原点としたボランティアの心を大切にします。

1 目標

- (1) 東京カリタスの家の活動に沿ったボランティアの養成、研修プログラムの企画実施をめざします。ボランティア相互の交流を通し、ボランティアムーブメントとしての発展をめざします。
- (2) ボランティアの開発に取り組みます。

東京カリタスの家ニュースの発行、ホームページ、東京教区ニュースの活用、教会訪問キャラバンの実施、カリタス・バザー、チャリティコンサートの開催協力等とおして、広報活動と地域交流をはかり、ボランティアの開発、初期養成を行います。

登録ボランティアに対し、活動状況や希望を把握するためのボランティアアンケートを実施します。（3月）

2 スタッフ編成

職員 1 名（兼任） ボランティアスタッフ 1 名 協力ボランティア若干名

3 ボランティア活動の充実化への取り組み

(活動先)

家族福祉相談室、地域活動支援センターみんなの部屋、放課後等デイサービスカリタス翼、ボランティア開発養成室、賛助会、事務局等。

(ボランティアの育成と学習活動)

- ・ボランティア養成講座 テーマ「聴いて、行う」 期間 5月～11月（全6回）
- ・ボランティアの初期養成 「フリースペース」の場を活用します。
- ・スーパーバイザーによる学習会を行います。

人との関わりをとおして自己を知る。心の病について学ぶ。ソーシャルワークについて学ぶ。

(スーパービジョンの活用)

精神科医師、心理、福祉の専門家によるグループスーパービジョン、個別スーパービジョンの機会を持ちます。

(人間的、靈的成長)

東京カリタスの家の祈り、東京カリタスの家ミサ、東京カリタスの家の心を深めるつどい、聖書講座等への参加をとおして人間的な成長をはかります。

(ボランティア相互の交流)

ボランティア交流会学習会、なでしこの会等でボランティア相互の交流をはかります。

(活動の歴史編纂)

「歴史をつなぐ会」を組織し、東京カリタスの家の創設からの活動等の編纂を通して、これまで育まれ、受け継がれてきた東京カリタスの家の精神の再確認と次世代への継承をめざします。

4 課題

広報活動の充実化をはかります。

事業共通課題

1 協働にむけて

法人の理念に基づき、より良い事業を行うために、それぞれの部門の強みを活かした協力体制の強化や、協働の可能性を考えます。

(職員研修)

法人と各事業の理念の理解を深め、共有することができる研修を計画します。

2 苦情解決委員会

職員体制の変化に伴い、機能の見直しを行います。

II 法人管理

事務局

1 総務

「公益財団法人」としての内実を整えるため、引き続き、管理体制の整備を行います。
職員役割評価制度、ボランティア規程、マイナンバー制度施行対応を中心に、導入に向けた準備を行います。

法人事業活動の充実、安全で円滑な実施を目指し、内外と連携して施設機能の見直し、整理と整備、設備の充実を図ります。

2 財政・経理

事業および法人運営に係る費用は寄附金や賛助会費等が財政基盤となっています。しかし不透明な社会状況の中で、大幅な収入増は見込めない為、引き続き支援の呼びかけと受け入れ態勢の整備を進め、外部助成金の申請・活用に努め、支出の見直しと抑制を図ります。

世界情勢の継続的な観察等の情報収集により資産運用委員会の運営補助、資産の保全に努めます。

3 広報

ボランティア開発養成室、賛助会と連携し、広報活動の充実を図ります。

「カリタス・ニュース」発行、ホームページの活用を図ります。

東京教区ニュース、カトリック新聞など外部メディアを積極的に利用します。

4 人事・職員体制

(職員体制) *新規採用予定者含む

| | |
|------------------|-------------------------|
| 役員 常務理事 | 常勤 1名 (各部門施設長兼務) |
| 事務局 | 職員 1名 (事務局長代行) パート職員 1名 |
| 家族福祉相談室 | 職員 1名 (ボランティア開発養成室兼任) |
| 放課後等デイサービスカリタス翼 | 職員 4名 *契約職員 1名 パート職員 4名 |
| 地域活動支援センターみんなの部屋 | *職員 4名 パート職員 1名 |

賛助会

(会員の増強)

前年度に引続き次項の活動等をとおして会員の増強と会費収入の増額に努めます。

(支援基盤の増強)

法人の精神性と活動の普及、支援者の増強を目的として、聖書勉強会、バスハイク、チャリティコンサート、バザー等を企画・実施します。

(支援活動)

賛助会会員、法人の目的及び事業に賛同する個人や団体のボランティア及び、寄附・支援者等による法人支援活動を行います。

カリタス・バザー、チャリティコンサート、切手整理グループ、ガレージセールなど
サロン・ド・コップ、サロン・ド・ユウなど